# 埼玉神社庁報

奉　祝
天皇陛下御即位三十年
第２２５号
発行　埼玉県神社庁
さいたま市大宮区高鼻町1-447-1
電話048(643)3542
編集　庁報室
印刷　㈱アサヒコミュニケーションズ

目　次

平成三十年度神社庁々務方針……2
天皇陛下御即位三十年記念
第三十九回埼玉県神社関係者大会報告……3
埼玉県神道青年会創立六十五周年記念事業
皇居勤労奉仕報告……4
神道青年会が神道青年全国協議会と
神道文化会から表彰……4
第三回「ミニ講座」報告……5
平成三十年度教化研修会開催のお知らせ……5
平成三十一年「日本の神話」カレンダー
御協賛のお願い……5
庁務日誌抄……6
総代研修会開催のお知らせ……6
祭式研修会開催のお知らせ……6
雅楽普及研修会開催のお知らせ……6
埼玉県神社庁神職総会開催のお知らせ……6
「神主さんと神社を学ぼう！」報告……7

天皇陛下御即位三十年記念 第三十九回埼玉県神社関係者大会　6月22日

# 平成三十年度神社庁々務方針

前原利雄

去る三月十三日、初の神殿鎮座記念祭斎行の後、講堂に於いて定例の埼玉県神社庁協議員会を開催した。平成三十年度の予算が承認可決され、中山庁長四期目の三年次がスタートした。ここに前の協議員会の報告を兼ねて今年度の庁務方針について概要を報告する。

先ず、協議員会での新年度予算大綱について、新年度予算は、歳入では前年度よりの繰越金を前年比同額の千五百万円と見込む一方で、前年度の神宮大麻頒布数の減体に伴う本庁交付金百六十万円減や神職負担金の微減など、総額で一億七千七百五十四万円とする前年比百六十三万円の減額予算となった。

尚、歳出においては、前年度新庁舎での本格的な業務執行の実績に基づき、光熱費や施設保守管理維持や庁舎セキュリティーなどの経費をはじめ、全般的に可能な限りにおいて予算の見直しを図った。特に、昨年七月から本年六月迄、当庁が一都七県神社庁連合会当番に当たり、連合会総会や教化担当者会、事務職員研修会その他諸会議など一切の開催諸経費を特別会計にて支出した。次回八年後の当庁当番に向けての準備を今年度より開始する。神事費は前年同額であるが、神殿に於ける祈年祭・神殿鎮座記念祭・大麻頒布祭・新嘗祭の他、月次祭等の諸経費を計上した。

教化啓蒙費などの教化費については、これまでの実績と、新たに過疎地域神社活性化推進対策費の予算計上を考慮した上で、前年比三十万円の減額とした。この科目は主に本県教化活動の中核を担う教化委員会（山田禎久委員長）の活動諸費の他、年四回発行の神社庁報費や神社調査費、関係団体助成費などに手当しているものである。神宮神徳宣揚費交付金は、昨年の実績に基づき、七十四万円の減額となった。

積立金では、「庁舎維持資金」を新設し、中長期的な庁舎のメンテナンスの財源として計画的に蓄えていく。何れにせよ、今年度も厳しい予算状況に変わりなく、予算執行に当たってはこれまで通り不要不急の支出を控え、諸経費の削減に努めて参る所存である。

尚、予決算（収支計算書）については、例年九月に開催の神職総会の際、業務報告とともに報告の予定である。

平成三十年度は、先ず明年の天皇陛下御即位三十年、さらには天皇陛下の御譲位や皇太子殿下の御即位などの御代替わりの諸儀式に向けて祝意の機運を高めるとともに、奉祝行事の推進を図る。

また、斯界の本宗と仰ぐ伊勢の神宮の御事については、次回の御遷宮を見据えつつ、本宗奉賛の柱である参宮促進と神宮大麻の増頒布運動の展開について本宗奉賛委員会を中心に取組み、「三ヶ年継続神宮大麻都市頒布向上計画」に基づく指定支部の活動を参考に教化委員会をはじめ協力団体との連携強化を図って参りたい。

前述の通り、本年度は、今期取り組んできた諸事業・諸施策の纏め総括の年となる。庁務をはじめ、各種業務の適切なる運営及び継続する事業の施策の充実とその推進に努めるほか、庁舎での諸会議や祭式指導者養成研修・初任神職研修・各種研修・ミニ講座・講演会など積極的な活用と共に施設の充実を図る。新規事業についても各支部や関係諸団体とも緊密なる連携を図り鋭意取組んで参りたい。そのために必要に応じて補正予算を組むなどして対応していく。

次に、教化活動については、各支部をはじめ教化委員会や研修所講師会、さらには一都七県教化担当者会などとも全面的な協力を得て、各種研修会・「お宮と親子の集い」の開催、神話カレンダー・教化冊子などの作成等々さらなる内容の充実に努めて参りたい。

その他、次代を担う後継神職の育成や階位取得のための神務実習の充実を図り、現任神職としての教養を深め、品性を陶冶して、社会の師表たりえる人材養成のための生涯研修のほか、雅楽や祭祀舞振興のための指導者の養成と県内各地区での講習会の実施についても講師と協議の上、計画を進めて参りたい。

さらには、本県神社界が抱えている喫緊の問題・事案に対しては、役職員一同迅速に対応するとともに実効性のある方途を講じて参りたい。

各位には尚一層のご理解とご協力をお願い申し上げる次第である。

（神社庁参事）

# 天皇陛下御即位三十年記念 第三十九回埼玉県神社関係者大会報告

関山知壱

去る六月二十二日、埼玉東支部当番により、「天皇陛下御即位三十年記念　第三十九回埼玉県神社関係者大会」が、三郷市文化会館を会場に開催されました。

細井欽作埼玉東支部神社氏子総代連合会副会長による開会の辞に始まり、神宮並びに皇居遥拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和を行い、中山高嶺庁長による式辞、大野光政県神社氏子総代連合会長の挨拶と続き、鷹司尚武神社本庁統理代理吉川通泰副総長、小松揮世久神宮大宮司代理堀川孝雄参事、打田文博神道政治連盟会長、有村治子参議院議員、木津雅晟三郷市長より、ご祝辞を頂戴致しました。

中山庁長式辞

続いて、神社庁規程表彰及び総代会恒例表彰が行われ、神職十四名、総代等関係者三十名の計四十四名が表彰され、被表彰者を代表して名倉勇芳川神社責任役員が謝辞を述べました。

次に、恩田栄治埼玉東支部長により、大会宣言案が朗読され、満場の賛同を得て、原案通り決議されました。

休憩を挟み、岩槻出身の落語家、三遊亭楽生師匠を講師としてお迎えし、「江戸時代に学ぶ人と人とのご縁」と題した講演が行われ、会場は笑いに包まれました。

その後、次年度当番支部である宮本和彦北足立支部長が挨拶し、押田豊副庁長の先導により聖寿万歳の三唱、大野隆司県神社氏子総代連合会副会長が閉会の辞を述べて大会の幕を下ろしました。

（埼玉東支部事務局長）

三遊亭楽生師匠

## 宣言

畏くも天皇陛下におかせられては、本年、御即位三十年目の佳節を迎えられた。また、来年一月七日に御在位三十年、四月十日には天皇皇后両陛下御大婚六十年を迎えられる。さらに、四月三十日には、天皇陛下の御譲位及び皇太子殿下の御即位という御代替わりの諸行事が続く。

「内平らかに、外成る」の思いが込められた平成の御代にあって、度重なる災害をはじめ、いかなる時も国民の象徴たらんと心身を尽くし、世界の平和と国安かれ民安かれの祈りを重ねて来られた天皇陛下の大御心への感謝を忘れてはならない。

本日、ここに集う我ら神社関係者は、皇室敬慕の精神を啓発し、祝意の機運を高め、奉祝の誠を捧げるためにも各地での奉祝行事を推進し、今後も皇室の御祖神であり、我らが本宗と仰ぐ神宮に対する県民の意識向上を図ることを誓うものである。

右、宣言する。

平成三十年六月二十二日

天皇陛下御即位三十年記念
第三十九回埼玉県神社関係者大会

# 埼玉県神道青年会創立六十五周年記念事業 皇居勤労奉仕報告

小林威朗

この度、埼玉県神道青年会は創立六十五周年記念事業として、二十五名の奉仕団を結成し、皇居勤労奉仕を行った（団長嶋田土支彦会長、副団長宮本修記念事業実行委員長）。六月四日から七日までの日程では、皇居内の宮殿地区、東御苑地区、吹上地区や赤坂御用地の清掃・植替え作業を行い、その前後では宮内庁職員の方から各地区の説明を受けた。

特に今回の勤労奉仕は、今上陛下が来年一月七日に御即位三十年を迎えられ、さらに四月末日に御譲位されることから、当会ではこの大御代に改めて感謝の誠を捧げることを目的とした。そのため、天皇皇后両陛下より御会釈を賜われたことは何よりもありがたいことであった。

四日午後、宮殿地区での奉仕を早めに切り上げ、宮内庁庁舎横の建物に移動した。そこで、入念な予行練習をし、両陛下の御到着をお待ち申し上げる。定刻となり天皇皇后両陛下着御の後、各団体が御会釈を賜わる。代表者は県名、団体名等を述べ、天皇陛下の御下問に対してのみ簡潔に申し上げる。岩手県・福岡県の団体にはそれぞれの地で起こった災害へのお見舞いとその後の様子を御下問遊ばされている。当会の御会釈は七団体中四番目。いよいよ両陛下が嶋田団長の前に移御せられ、団長が一礼し、団員も合わせて一礼する。

陛下から、神社関係者であるかとの御下問に対し、団長は四十五歳以下の神職で組織されている旨を申し上げた。その後の詳細を記述することは憚られるが、その内容は昨年九月の高麗神社行幸啓や、毎年八月一日の氷川神社勅祭（勅使差遣と奉幣）に対する大御心が拝察されるものであり、埼玉県の神職としてこの上なくありがたいものであった。

この他、六日の宮中三殿拝礼と幄舎清掃奉仕や、七日に賜った皇太子殿下の御会釈についてなど、報告すべき点が多々あるが紙幅の関係上省略する。

総じて、皇居勤労奉仕によって、大御心のありがたさを実感し、埼玉県の神職として自覚と誇りを再確認できた。水宮基文時局対策室長と髙野浩成副室長の尽力により無事に事業が完遂され、団員の親睦が深められたことを記しておきたい。

（神道青年会副会長）

皇居勤労奉仕

# 神道青年会が神道青年全国協議会と神道文化会から表彰

去る四月二十六日、神道青年全国協議会第七十回定例総会において定例表彰式が行われ、埼玉県神道青年会が二年間かけて行った事業「埼玉県忠魂碑等調査」とその成果として刊行した『埼玉県の忠魂碑』が最優秀事業賞を受賞いたしました。

また、五月二十五日に行われた神道文化会設立七十周年記念式典では、同書に掲載している石碑群や報告書が「優れた資料」として評価され、北白川道久名誉会長より表彰状と記念品料を拝領して参りました。

今回表彰を頂いた事業は、県内神職の先輩方が続けてこられた英霊顕彰を引き継ぎ、神青会員が力を合わせて完遂させたものです。これまでの先輩方のご尽力と、事業に関わった全ての方々に改めて感謝申し上げます。

表彰状

埼玉県神道青年会殿

神道文化会

会長 田中恆清

表彰状

最優秀事業賞

埼玉県神道青年会殿

神道青年全国協議会

会長 依野 敏

## 第三回「ミニ講座」報告

中山真樹

第三回「ミニ講座」を六月二十八日に二十一名の参加の下、開催しました。

本講座は、県内神職を対象に、社会人としての資質向上につながるよう、平日の昼間や、宿泊を伴う各種研修会に、なかなか参加できない方にも考慮し、夕方六時から九十分程度としました。

前回、二月に開催した続編という事で、今回も「心が見えるマナー講座」と題し、Sorairo Weddingの松本智保子先生を講師として迎えました。

松本智保子先生

松本先生は、今回初めて参加の人や、前回も参加した人がいることから、おさらいとして参加者同士が名刺交換を実際に行い、そのマナーについて指導されました。また今回は、上座・下座のマナーという事で、様々な場所での上座の位置等を説明されました。最後に、マナーとは形に心をのせて相手を尊重することが大切であると改めて話されました。

今回も講座終了後に、懇親会を開催し、短い時間ではありましたが、講師との意見交換や親睦を深めました。

（教化委員会研修部班長）

## 平成三十年度教化研修会開催のお知らせ

本年は、埼玉県神道青年会が創立六十五周年にあたるため共催とし、禊錬成研修会との選択制となりました。何れか一方を選んでお申込み願います。

**期　　日**　九月十一日（火・先負）～十二日（水・仏滅）
**会　　場**　三峯神社
**研修主題**　「二十年後の社会に向けて」
**副　題**　「神職としての誇り、後世への思い」

**開催趣旨**　皆さんは、二十年後の奉務神社がどうなっているのかを想像したことがありますか。二十年後の自分や家族、後輩たちは、神職という立場に何を思い、神社とどの様に向き合って奉仕しているのでしょうか。

本年度の教化研修会の第一講では、ジャーナリストで浄土宗の僧侶である鵜飼先生から、伝統宗教に差し迫る存続の危機に、今後残っていくための心構えや取り組みについてご講義頂きます。第二講では、自給農の範囲で家族をまかない、残りの時間を自分のやりたいことに費やす生き方（半農半X）を提唱する塩見先生に、神職が生き甲斐を持って地域に向けて新たな価値を創り出す方途についてご講義頂きます。これを受けて皆さんには、将来の自分・子供や後輩などの後継者に向けた手紙をお書き頂きます。その手紙は公表するのではなく、タイムカプセルに収め、神社庁で大切に保管して二十年後の教化委員が開いて、お手紙をご希望先にお届け致します。

二十年後には、神社や神職を取り巻く環境も、氏子崇敬者から求められる要望も変化していることでしょう。講師の方々のお話を参考にしながら、今思う神職としての生き方や気概、将来の自分・子供や後輩などの後継者に向けた励ましを手紙にすることで、「自分自身が日々神社に奉仕している事」「そこに誇りと生きがいを持つ事」「その気持ちを何年先でも変わらずに持ち続ける事」を再確認する研修会とします。

**教化研修会講師**
**京都市　浄土宗正覚寺副住職・ジャーナリスト　鵜飼秀徳先生**
**半農半X研究所代表・総務省地域力創造アドバイザー　塩見直紀先生**
**福知山公立大学地域経営学部地域経営学科特任准教授　田所常典先生**
**禊錬成研修会講師**
**埼玉県神社庁神道行法錬成行事道彦**
**埼玉県神社庁神道行法錬成行事助彦　朝日則安先生**
**申込みは支部事務局（八月二十五日締切）**

## 平成三十一年「日本の神話」カレンダー御協賛のお願い

宮本洋平

日本神話を家庭の中で目にする機会を提供し、その大切さを多くの方々に知って頂くために続けてまいりました神話カレンダーも、今回で十九作目となります。

平成三十一年版の神話カレンダーは、三年目を迎えた「少彦名」のお話しで、今回で完結となります。絵を笠原正夫先生にお願い致しております。

今回は、少彦名神が大国主神と協力しながら葦原中国の国造りを始めますが、この二神が国々を巡る途中のエピソードを『播磨国風土記』や『伊予国風土記』（逸文）から拾います。しかし、国造りの最中、少彦名神は思いがけないことから大国主神と別れ、海の彼方にあるという常世の国に行ってしまうまでのお話しです。

どうぞ本作品に対しましても変わらないご理解を戴きまして、皆様のご協賛を賜りますようお願い申し上げます。

**仕様　B3判縦**
**表紙・本文七枚　カラー**
**問合せは神社庁まで（八月十日申込締切）**

（教化委員会教化広報部班長）

# 庁務日誌抄

4・28　埼玉二区憲法フォーラム　竹本参加
於　川口・日本産業専門学校
5・1　神社庁月次祭　於　神社庁
5・3　埼玉五区憲法フォーラム
前原・髙橋（信）参加　於　市民会館おおみや
5・5　埼玉九区憲法フォーラム
於　狭山市民会館　高麗参加
5・7　教化委員会委員総会　於　神社庁
5・8　埼玉県庁学事課報告　髙橋（信）出向　於　埼玉県庁
5・10　事業部会（嶋田班）　於　神社庁
5・15　庁報編集会議　於　神社庁
5・21　神社庁規程改正検討委員会
過疎地域神社活性化推進委員会第一回現地実態調査
於　東秩父村
5・22　事業部会（新渡戸班・嶋田班）　於　神社庁
埼玉十一区憲法フォーラム　髙橋（信）参加
於　秩父神社
全国神社総代会代議員会
中山・大野・野口・武田・茂木出席　於　本庁
國學院大學協議員会　於　明治記念館
清和政策研究会「懇親の集い」　於　前原参事参加
東京プリンスH
5・23　神社本庁表彰式　表彰者六名
中山・竹本・大野・前原・武田・茂木出席
於　明治記念館
5・24～25　研修部会（中山班）　於　神社庁
研修部会（恩田班）　於　神社庁
神社本庁評議員会・班幣式・神社庁長会他
中山・竹本・大野・前原出席　於　本庁
5・25　神道文化会慰霊祭・式典・祝賀会
於　東京大神宮
5・31　教化広報部会（宮本班）　於　神社庁
6・1　宮司辞令交付式　於　神社庁
6・6　神社庁月次祭　於　神社庁
靖國訴訟口頭弁論傍聴　前原出席　於　東京地裁
6・8　皇太子同妃殿下御結婚満二十五年奉祝祭
於　神社庁
6・10　神宮参与評議員会・伊勢神宮崇敬会代議員会
中山庁長・前原参事出席　於　神宮会館
第七回神社検定　武田・茂木助勢
於　神社庁および大宮・氷川神社
6・11　神政連県本部監査・役員委員合同会議
於　神社庁
6・12　神政連本部長事務局長連絡会・神政連国会議員懇談会
押田・曽根原・高麗・前原出席
於　神社本庁・Hニューオータニ
6・13　神政連中央委員会
押田・曽根原・高麗・大野・前原出席
於　本庁
神社庁規程改正検討委員会
於　神社庁
6・13～14　神社庁事務担当者会　前原参事出席
於　本庁
6・15　神社庁会計監査会　於　神社庁
祭式指導者研究会　於　神社庁
6・19　事業部会（嶋田班）　於　神社庁
正副庁長会・神社庁役員会　於　神社庁
6・20　研修所講師会　於　神社庁
研修部会（恩田班）　於　神社庁
一都七県当番引継
中山庁長・前原参事・武田主事出席
於　茨城県神社庁
6・22　第三十九回埼玉県神社関係者大会　八百名参加
於　三郷市文化会館
6・25　過疎地域神社活性化推進委員会　於　神社庁
國學院大學院友神職会総会　前原参事出席
於　國學院大學
6・26　入間東支部総代会大会　武田主事講師
於　富士見市民文化会館
6・27　教化広報部会（宮本班）　於　神社庁
正副庁長議長会・神社庁協議員会・神政連代議員会
於　神社庁
6・28　本庁表彰祝賀会　於　清水園
事業部会（新渡戸班）　於　神社庁
第三回「ミニ講座」　於　神社庁
7・3　庁報編集会議　於　神社庁
7・5～6　祭式指導者養成研修会　於　神社庁
7・6　研修部会（中山班）　於　神社庁
7・9　平和の祈り　神青会奉仕
於　川越カトリック教会
7・9～13　一都七県神社庁中堅神職研修会
於　四名受講
明治神宮会館
7・10　研修部会（恩田班）　於　神社庁
7・11　事業部会（新渡戸班）　於　神社庁
7・24　教化広報部会（宮本班）　於　神社庁

**任免辞令**

4・1　**任**　野村　幸司　新　高麗神社権禰宜　（入間西）
5・1　林　裕子　新　神明社権禰宜　（入間西）
南埜　弘高　本　中氷川神社権禰宜　（入間西）
竹本　佳徳　兼　横曽根神社他一社宮司　（北足立）
5・2　髙橋　文久　本　出雲乃伊波比神社他五社宮司　（大里児玉）
5・15　髙橋　文久　兼　八宮神社宮司　（比　企）
6・1　須田　秀行　本　大雷神社他八社宮司　（比　企）
吉田　敬司　本　女体神社禰宜　（埼玉東）
5・1　**免**　竹本　澄思　本　横曽根神社他一社宮司　（北足立）

**この度、前原利雄神社庁参事は七月十五日付で退職となりました。**
**後任として、武田淳神社庁主事が七月十六日付で神社庁事務局長に就任致しました。**

## 告　知

**総代研修会開催のお知らせ**
会場　秩父神社参集殿
日時　平成三十年八月二十三日（木・先勝）
午後一時開会
講演　「大嘗祭と象徴天皇制の意義について」
秩父神社宮司　薗田　稔氏
「厳粛なお祭り執行のために」
埼玉県神社庁祭式講師　高麗文康氏
申込　八月五日まで支部事務局

**祭式研修会開催のお知らせ**
会場　箭弓稲荷神社
日時　平成三十年八月三十一日（金・先負）
午前九時三十分開会
申込　八月十日まで支部事務局

**雅楽普及研修会開催のお知らせ**
会場　神社庁
日時　平成三十年九月四日（火・先勝）
午前十時開講
申込　八月二十四日まで支部事務局

**神職総会開催のお知らせ**
会場　神社庁
日時　平成三十年九月二十七日（木・先勝）
午後一時三十分開会
講演　「私たちの皇室～皇位継承の新たなる形～」
広島県三原市鎮座亀山神社宮司　潮清史氏
申込　支部事務局

# 「神主さんと神社を学ぼう！」報告

宮本洋平

四月八日、武蔵一宮氷川神社において、第五回「神主さんと神社を学ぼう！」を開催致しました。昨年の雨の中での開催とは異なり、晴天のもと、絶好の開催日和となりました。参加神職は、白衣白袴姿に、おもてなしの心を持って臨みました。以下に事業概要をご報告申し上げます。

**活動テーマに沿って**

今期の教化委員会活動テーマ「現代の神社経営～二十年後の社会に向けて」に沿っての事業開催は二回目となります。「経営の安定」というと、つい社頭の繁栄のみを思い浮かべがちですが、先ず何よりも神社への信仰心を醸成することが必要と考えます。この事業が地元神社への参拝のきっかけとなり、やがて、確固たる信仰へと繋がることを意識して、様々な企画を開催致しました。

**室内での催し**

未だ衰えの見せない「御朱印ブーム」に合わせて、本事業に先行して三月十六日より楼門内西参集殿にて、「埼玉の神社御朱印展」を開催しました（四月十七日まで）。今回は合計二百二社・二百七十六体の御朱印に加えて三十六社・六十冊の御朱印帳を展示し、期間中、会場は連日多くの参拝者で賑わい、各社それぞれの特徴ある御朱印や色とりどりの御朱印帳にも目を留めていました。

御朱印展と連動させて、社務所小ホールでは「御朱印帳作り」を開催し、二百三十名近くの方が参加され、好みの千代紙を選びながら楽しそうに作業をしていました。

また、事業当日は、西参集殿に「氏神検索コーナー」を設置したところ、多くの方が興味を示され、自分の氏神を知りたい方々の長蛇の列ができていました。併せて、今年の神話カレンダーの販売も行いました。

小ホール前に設置した「神話カレンダー原画展」では、来年に控えた天皇陛下の御譲位を念頭に、神話と皇室を連想できるものとして「天孫降臨」「神武天皇」の原画を選び、展示致しました。

社務所大ホールでは、㈱クラブツーリズムと共催した初の試みとして、三名の講師による講座を開催しました。「神道入門講座」（武田淳埼玉県神社庁主事）「神社と街道」（長谷川隆クラブツーリズムナビゲーター）「神社と古代史」（稲用章クラブツーリズムナビゲーター）。すべての講座が満員の盛況となりました。

社務所一階ロビーでは日本文化興隆財団による神社検定ＰＲコーナーを設けて、おためし「神社検定」が実施され、大勢の方々が検定問題に挑戦しました。また、同じロビーでは、地元の宮善商店による神棚の展示や販売も行われ、無料で檜のおがくずも配られて好評を得ました。

**境内での催し**

神楽殿前では、今年も県内里神楽と雅楽・神楽舞の奉奏が行われました。

里神楽は秩父郡東秩父村坂本鎮座八幡大神社の「神代里神楽」。午前は「恵比寿座」、午後は「稲荷座」による舞台でした。伝統的な神楽の中にちりばめられたコミカルな場面に、会場も大いに盛り上がります。神楽が奏でられているあいだ、神楽殿周辺にはまるで村の鎮守のお祭りのような懐かしい雰囲気が満ち、里神楽の持つ力を改めて思い知らされる気がしました。

雅楽は國學院大學「青葉雅楽会」、神楽舞は國學院大學「みすゞ会」による奉奏。学生による若々しい奉奏に多くの方が熱心に見入っていました。

また、十時から一時間ごと計五回の武蔵一宮氷川神社の境内案内に、多くの方が参加されておりました。

御子神楽殿では、石山信明野火止鎮座氷川神社宮司による神話講談「ヤマタノオロチ」「ヤマトタケル」が行なわれ、講談が始まると石山宮司の熱演に引き込まれるとともに、わ

かりやすい神話の説明に、皆一様に頷き合う様子が印象的でした。

三ノ鳥居脇に設置した本部テントでは、「神主さんと神社を学ぼう！」のチラシと「むすひ」を配布しながら、参拝者に各会場へ足を運んで頂けるよう、参加神職一同奮闘した次第です。

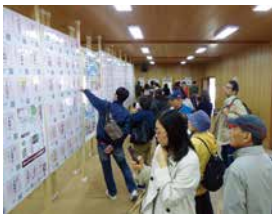
**他団体との協力**

参道では、「A級グルメが集う美食の祭典」と称し、「氷川マルシェ」（氷川の有名店がずらり並ぶ食の祭典）が様々な食事を提供し、酒類の販売も行いました。また「さんきゅう参道」（緑溢れる市民型マーケット）が飲食や物販ワークショップを行い、「あつまる！つながる！ひろがる！」をキャッチフレーズに七日八日の二日間開催されました。

**むすびに**

今年も、氷川神社の職員の方々のご協力と、ご助勢下さいました神職の方々のご奮闘によりまして、無事に開催する事が出来ました。皆様方へ厚く感謝申し上げます。冒頭にも申し上げましたが、この開催により多くの方々が県内各神社へ足を運んでくださることを願っております。

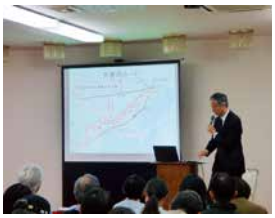
（教化広報部班長）


埼玉の神社御朱印展

御朱印帳作り

神話カレンダー原画展

「神道入門講座」


「神社と街道」

「神社と古代史」

おためし「神社検定」

神棚の展示や販売

八幡大神社「神代里神楽」

境内案内

神楽舞

雅楽

神話講談

本部

氷川マルシェ

さんきゅう参道